

作品

- ・それぞれの研究室における技術力及び表現力を備えている作品かを評価する。
- ・それぞれの研究室の素材や技法を活かした作品かを評価する。

筆答試験

- ・出題に対して、工芸の様々な領域について横断的に知識を有しているか、また自分自身の言葉で的確な文章表現で述べているかを評価する。
- ・現在の伝統工芸の現状を歴史的背景も含めて把握し、専門的かつ幅広い知識や情報をグローバルな視点で述べられているかも含め総合的に評価する。

実技試験

染研究室

- ・専門的素養として型染の基本的な染地・白地の違いを理解し、構造的思考力と表現力、独創性を備えているかを評価する。

織研究室

- ・植物について普段から観察しそれを考察する豊かな感性と、その解釈から具現化する創造性を評価する。
- ・織物設計について、必要な基礎的素養としてコンセプトに独自の世界観を構築し、デザインに反映されているか、形態に則した図柄の構成ができるかを評価する。
- ・専門的素養として拵技法を理解した設計ができるか、形態、技法にあった素材と番手、染料を選択した具体的な制作計画ができるかを評価する。

陶磁器研究室

- ・ロクロ成形の技術力を確認し、評価する。
- ・修士課程でどのような展望を持ち制作に取り組むかに着眼し、評価する。

漆工研究室

- ・基本的なデッサン力や表現力、独創性を備えているか、また、漆芸に関する専門的な知識を有し、各技法や技術を理解し、完成予想図に落とし込んでいるかを重視して評価する。
- ・説明書の項目にしたがい作品の内容について、的確かつ分かりやすく記載されているかも含め総合的に評価する。

面接

- ・工芸領域における幅広い教養と専門的素養を備えているかを評価する。
- ・研究目的や研究計画を的確に述べることを評価する。

令和8年度

沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科

生活造形専攻 工芸専修 入学選抜試験

共通筆答試験（小論文）

試験時間：10：00～12：30

※問題に関する質問にはお答えできません。

【問 題】

近年、日本の工芸作品展を海外等で開催（発表・展示）する際に、「工芸」をあえて訳さずコウゲイ（KOGEI）として表記する展覧会が見られるようになった。

このような動きの背景にあるものを考察し、日本の「工芸」について、伝統、素材、技術をキーワードに、自身の考えを述べなさい。

参考までに、「工芸」の訳語として craft、applied art、industrial art、art and craft などを使用することがある。

<注意事項>

1. 所定の原稿用紙 3～5 枚（1000 字～2000 字）以内で記述すること。
2. 記述は所定の時間で行うこと。
3. 辞書等の使用は禁止する。

令和 8 年度

沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 生活造形専攻

工芸専修 染研究室 実技試験問題

試験時間 13:30～16:30

配布物 黒画用紙 3 枚、下書き用紙 3 枚、トレーシングパーパー 2 枚、
白カーボン紙 1 枚、直定規、L 型定規、三角定規、デザインカッター、
カッター替刃、カッターマット、鉛筆

使用できるもの 各自で用意した図案用具(鉛筆、消しゴム、マジック類、定規)

***試験開始 30 分までに、監督者に確認してから使用してください。**

注意事項 試験の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと

※問題に関する質問にはお答えできません。

【テーマ】

「台風」

【問題】

台風から連想される動静、エネルギー、あるいはその後の情景などを自由に解釈し、以下に指定する2つの形式で構成しなさい。ただし、「型染」の型紙としての機能を想定し、黒画用紙をデザインカッターで彫り抜いて表現すること。

1. 染地型（そめじがた）
2. 白地型（しろじがた）

※ 1. 染地型と 2. 白地型の2枚を並べた際に、画面上の地平線や中心軸など、何らかの視覚的連続性を持たせること。

※ 型染の技法上の特性（絵柄が脱落しない構造など）を十分に考慮すること。

【注意事項】

1. 黒画用紙の裏面に、受験番号シールを貼ること。
2. 黒画用紙の裏面に上下がわかるように矢印（↑）シールを貼ること。
3. 図案の大きさは、42cm×30cm、縦・横は自由である。
4. 42cm×30cmの枠は、黒画用紙の中央に収まるようにすること。
5. 各図案において、染色する箇所を黒とし、糊で防染する箇所を切り抜くこと。
6. カーボン紙、トレーシングペーパー、下書き用紙は図案作成のために自由に使用しなさい。または使用しなくても良い。
7. すべての配布物は、持ち帰らないこと。

【提出するもの】

- ・ 黒画用紙（染地型1点、白地型1点）

令和8年度

沖縄県立芸術大学 大学院造形芸術研究科生活造形専攻

工芸専修 織研究室 実技試験問題

花をテーマに、下記の条件で壁面装飾布の織物デザインをなさい。

(記)

- 技法 : 絣を使用する (経緯絣、経絣、緯絣のいずれか一つ)
- 寸法 : 幅 180 cm × 長さ 240 cm (90 cm 幅の 2 枚組)
- 色彩 : 全体図のデザインが分かる様に着色 (縮尺 1 / 10)
- 答案用紙 : B3 ケント紙 1 枚
- 下書き用紙 : B3 方眼紙 2 枚
- 実技解答用紙を記入する事

令和8年度

沖縄県立芸術大学

大学院造形芸術研究科生活造形専攻

工芸専修 織研究室 実技試験解答用紙

○ 受験番号：

○ 作品名：

○ 経糸（素材・番手等）：

○ 緯糸（素材・番手等）：

○ 作品のコンセプト：

令和 8 年度
沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科
生活造形専攻 工芸専修 入学者選抜試験
陶磁器研究室 実技試験問題

【問題 1】

試験時間 13:30~14:30

用意された粘土を使用し、指定されたトンボを用いて、
電動轆轤で 1 時間以内に碗を数挽きしなさい。

【問題 2】

試験時間 14:30~16:30

受験生自身の制作テーマに則って、未来に制作する作品をエスキースしなさい。
また、制作説明として制作の意図などを原稿用紙に 400 字以内で説明をしなさい。

※注意事項

1. エスキースは、画面に正面と側面（2 方向）、加飾も想定して描くこと。
 - ・鉛筆で素描すること
 - ・回転体の場合は、正面のみ描くこと
2. 制作説明には、制作意図と使用する生地土、釉薬（無釉）、焼成温度や雰囲気も記述すること。

配布物

鉛筆 2 本

画用紙 2 枚（一枚は予備）

消しゴム

* 問題に関する質問にはお答えできません。

令和8年度

沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科

生活造形専攻 工芸専修 入学者選抜試験

漆工研究室

【 実技試験問題 】

試験時間 13:30～16:30

配布物

- ・ 解答用紙（完成予想図） A3サイズの白画用紙 1枚
- ・ 説明書 A4サイズ 1枚
- ・ 下書き用紙 A3サイズ 2枚

使用できる用具

・ 素描用具、色鉛筆

※注意事項

- ・ 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないこと。
- ・ 定規、コンパス等その他の用具は使用しないこと。

【問 題】

1. 解答用紙 A3 (420mm×297mm) サイズの白画用紙に「水」をテーマとし、加飾を施した漆芸作品 (立体) の完成予想図を描きなさい。
(下書き用紙は自由に使用して良い)

2. 説明書の項目にしたがって作品の内容について記述しなさい。

*問題に関する質問にはお答えできません。

【注意事項】

1. 加飾部分は色鉛筆で着色する。
2. 作品本体の色は「黒」又は「朱」と想定し色鉛筆で着色する。
(本体の着色は「黒」か「朱」か判別できる程度で良い)
3. 加飾部分の素材や技法が分かり易いように表現すること。
4. 定規やコンパスは使用しないこと。
5. 説明書の「作品の環境」とは、使用又は設置する場所・状況・目的・他者との関わり・その他、作品を取り巻く全てを意味する。
6. A3 サイズの白画用紙のタテ・ヨコは自由とする。作品の上下が分かるように裏面上部中央に作品の上部を示す矢印 ↑ を鉛筆で明記する。
7. 全ての用紙の裏面ラベルに受験番号を記入すること。

【提出するもの】

- ・解答用紙 (完成予想図) A3 サイズの白画用紙 1 枚
- ・説明書 A4 サイズ 1 枚
- ・下書き用紙 A3 サイズ 2 枚

令和8年度沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科入試
工芸専修の解答・解答例について

1. 作品提出

出題内容が個々の研究テーマに関する作品の提出であり、解答又は解答例を公表することで受験生の作品に影響を及ぼす可能性があること、また著作物にあたることから、解答及び解答例は公表しない。

2. 小論文

受験者の思考力や表現力を正当に評価するため。また、解答例に依拠した画一的な答案が増え、本来測るべき独自の発想や論述が損なわれる恐れがあるため公表しない

3. 実技試験

出題内容が個々の研究テーマに関するアイデアに関するものであり、解答も解答例も著作物にあたることから、解答例は公表しない。

4. 面接

出題内容が個々の研究テーマに関するものであり、解答及び解答例がないため公表できない。